

サンタ新聞

NPO法人チャリティーサンタ
年次活動報告書　2019.6 ～ 2020.5

Charity Santa

●目次

01. 活動総括・ハイライト
02. 数字で見るチャリティーサンタ
03. サンタクロース衣装の改善報告
04. 支部活動について
05. ルドルフ基金
06. サンタクロースからの手紙
07. 未来の手紙
08. ブックサンタ2019
09. 被災地サンタプロジェクト
10. 福島生き×活きキッズツアー
11. Santa Mothers Dreams
12. コラム
「体験」が子どもたちに与える効果
13. 企業との連携事業
14. 自治体との連携事業
15. 大学との連携
16. メディア掲載実績
17. 活動協力・連携団体のご紹介
18. 寄付受付結果のご報告
19. 2019年度会計報告

01. 活動総括・ハイライト

「ルドルフ基金」への社会参画が躍進！子どもを社会で支える未来を

2019年度は、**11社**の企業・団体と「ルドルフ基金」を通じて活動連携をしました。「ルドルフ基金」では、家庭の事情や被災などで子ども時代にあって当たり前の「思い出」や「体験」が不足している子どもに対して、「思い出不足」を解消するため、社会が手を取り合って子どもとその家族を支える活動に賛同いただける個人・団体の皆様へ呼びかけを行っています。

「特別な思い出」を必要とする子ども・家族の数は日本中に数多くいる一方、チャリティーサンタでは慢性的な「ボランティアサンタ不足」の課題を抱えており、子どもたちがサンタクロースを待っていたとしても「クリスマスのサンタ訪問」叶わないことがあります。2019年度は、基金への金銭的な寄付だけでなく「サンタになるボランティア」としてのご協力、ブックサンタ2019を通じてプレゼントとなる絵本の寄付、行政からのアプローチ、大学を通じてのボランティア参加促進、様々な子ども支援団体を経由した絵本の寄贈など、多くの皆様の多角的なご協力により子ども達にクリスマスの素敵な思い出を届けることができました。

→詳細は19ページへ

2019年度の主なトピックス

●サンタ活動地域が26都道府県 37支部に。
　女川・我孫子・静岡・佐賀の４支部が新設！
●ブックサンタ2019に「丸善、ジュンク堂書店」が参加。
　全国３４都道府県２８２書店で参加可能に。
●民間企業11社と連携事業を実施。
●一人親/子ども支援団体を通じて、支部のない地域にもプレゼント（絵本）を届けられるようになりました。



02. 数字で見るチャリティーサンタ （実績報告）



サンタになった人の数

1,691人

関係人数の合計

約4万人



届けたご家庭数

1,236軒

（内、要支援家庭221軒）



子どもの人数

2,462人

（内、要支援家庭の子ども 383人）



保育園 ・ 幼稚園 ・育児サークル
養護施設・病院などへの訪問

71軒　2168人

（内、要支援対象施設　16軒　370人）



サンタクロースからの手紙販売数

583通

（内、要支援家庭へのギフト 364通）



ブックサンタで集まった絵本の数

6,011冊



Santa Mother’s Dream販売数

470個



ルドルフ基金活動連携企業数

１１社

活動協力・ご協賛企業数

112団体



2019年度　寄付金総額

12,506,918円

03.サンタクロース衣装の改善報告 ～「本物のサンタ」へのこだわり ～

「オリジナル髭」の試作品が完成





　サンタクロースが子ども達に「本物だ！」と信じてもらうには、サンタさんの見た目がとても重要です。

　チャリティーサンタではネパールにある縫製工場と協力し、本格的なサンタ衣装の開発に取り組んで参りましたが、「髭」に関しては、数年前からコスト削減の関係で市販品を使用していました。

　しかし、市販品では製品の質にばらつきがあり、毎年同じモノを手配することも困難だったため、今年度ついに「オリジナル髭」の開発に着手。チャリティーサンタ の「本物のサンタ 」へのこだわりを凝縮した試作品が完成しました。衣装のクオリティアップのための専属チームも結成。「本物のサンタ」を追求する道のりは、まだまだ続きます。

04-01. ボランティアによる支部活動について

北東京支部：運営ボランティアの活躍が支えた「MUFG Gives Back」

私自身が母子家庭に育ち、運動会でお弁当を食べるときも一人、当時は見かねた先生が声をかけてくれましたが、時折「心にぽっかり穴が空いた状態」を経験してきました。これが子どもにとっては大きな問題です。私はルドルフ基金の取組みは**子ども達の心の問題に対して支えとなる**と考え、より多くの家庭にサンタクロースとの特別な思い出を届けたくてこの活動に参加しています。2019年度、大手銀行グループの社員ボランティアさんを受け入れると決まった当初は、自分の社会経験から正直「大変なことになりそうだ」と不安もありました。企業と連携するには、より強固に「プライバシー」「コンプライアンス」「男女共同参画」「内規」等、守らなければならないルールが大量にあるからです。実際に挫けそうな場面もありましたが**「困難な家庭へのサンタ訪問をとにかく増やしたい」**という企業側の要望と、私の思いとが一致していた為、やり遂げることができました。ビジネスの力や仕組みを、社会の課題解決に向けたチャリティーサンタの取組みとうまく組み合わせると、自分たちだけでは到達しえないことが実現できます。今回の連携により、ルドルフ基金を通じての訪問件数は大幅増とすることができました。私にとっては最高の結果です。私自身も、チャリティーサンタで出会った仲間と新たにひとり親家庭への支援活動を始めました。**「子ども達のために常に活動したい」という思いを抱く有志が集まるチャリティーサンタは、少しずつ社会をより良くしていくはず**です。

（北東京支部：2019年度副代表　太田 祥平）

04-02. ボランティアによる支部活動について

宮崎支部：70人の学生ボランティアが目指す、地域と共に創る笑顔

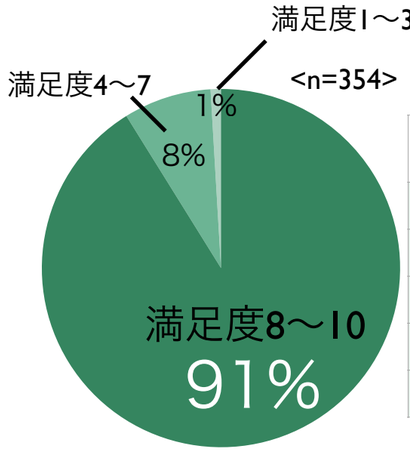
宮崎支部は活動２年目の新しい支部ですが、2019年度のクリスマスは111名（内、学生106名）で、80軒のサンタ訪問を実施しました。特徴的なのは、イブ当日だけでなく**準備段階から72名（内、学生70名）のボランティアが在籍**していること。学生が中心となることで、時間の融通が効く、やりたい事がとことんできる、大学との連携も取りやすい、というメリットがあります。何より「子ども達を笑顔にしたい」という共通の目的で集まるメンバーは本当に素敵な人ばかり。まずは説明会に足を運び、この素晴らしいメンバーの雰囲気に接してもらえるよう、SNSでの投稿、学校での広告掲示、クチコミ、活動紹介の映像を大学内で流すなど、思いつく限りの広報を行なってきました。中でも重要視したのは「クチコミ」です。ボランティアもご家庭からの依頼も、沢山の広報手段で皆の目に留まり、クチコミによって参加を決意するケースが多いです。もちろん全てが順調ではなく、モチベーションを保ち続ける事、新メンバーにも馴染みやすい雰囲気作り、個人がストレスを抱え込みすぎないようにするなど、運営上で大変だと感じた面もあります。まだ２年目で実績も少ないですが、地域の皆様のご協力により少しずつ子どもたちに**サンタクロースに会える夢と笑顔を届け、ボランティアを通してサンタクロースのような人を増やすことができている**と思います。この活動のやりがいは、応募してくれたご家庭や参加してくれたスタッフの笑顔・一番は子どもたちの笑顔です。私たちはこれからも**宮崎の方々と一緒に素敵なクリスマスを創っていきたい**と思っています。(宮崎支部：2019年度代表/副代表　嶋田 井手 梁瀬)



04-03.サンタ訪問活動の総括（１）

参加者の９割が「満足」と回答、子どもたちへの接し方が高評価に。

■ボランティア側：参加満足度アンケート



＜サンタクロース活動への満足度/１０点満点中/単位：件＞

	活動満足度（平均）	満足度1～３（不満）	満足度4～７（ふつう）	満足度8～10（満足）	合計
初めて	8.7	2	54	216	**272**
２回目	9.1	0	3	43	**46**
３回目	9.4	0	0	17	**17**
４回目以上	8.9	0	3	17	**19**
合計		2	60	**293**	**354**

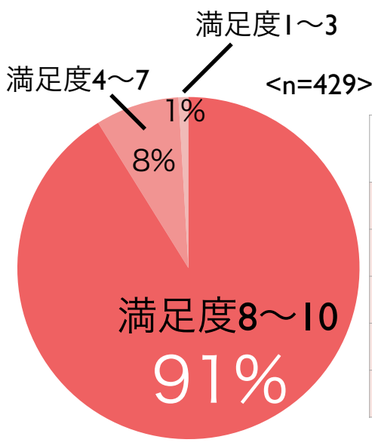
＜不満・改善してほしい点＞

・12歳で全く信じていないお子さんとのやりとりに困った。
・事前確認の時間が少なく情報を把握しきれないまま訪問する形になったため、事前準備の時間をもう少しいただけると良かった。
・どうしようもない事だとはおもうんですが、特に住宅街で訪問するご家庭を探すのが大変でした。
・初めてで、緊張してあまり会話を進められなかった。
・公共交通機関での移動が大変だった。

＜特に満足した点＞

・お子さんの緊張と照れが混じった純粋な笑顔に「やってよかった」という気持ちでいっぱい。それだけで十二分に満足です！
・親御さんからお子さんへの愛情を感じ、幸せをいただきました！
・サポートサンタでしたが、お家に上がらせていただき、お子さんの喜ぶ顔が見られたのが一番うれしかったです。
・訪問が終了した瞬間にお母さまから連絡があり「うれしくて帰ってから号泣していました！」と連絡が来ていた時にちょうどサンタと私も感動して泣いていました。
・運営の方も段取りが良くて、気持ちよく活動を行うことができた。

■ご家庭側：参加満足度アンケート



＜サンタクロース訪問への満足度/１０点満点中/単位：件＞

	活動満足度（平均）	満足度1～３（不満）	満足度4～７（ふつう）	満足度8～10（満足）	合計
初めて	9.2	3	19	200	**222**
２回目	9.1	1	7	66	**74**
３回目	9.4	0	4	72	**76**
４回目以上	9.5	0	4	53	**57**
合計		4	34	**391**	429

＜不満・改善してほしい点＞

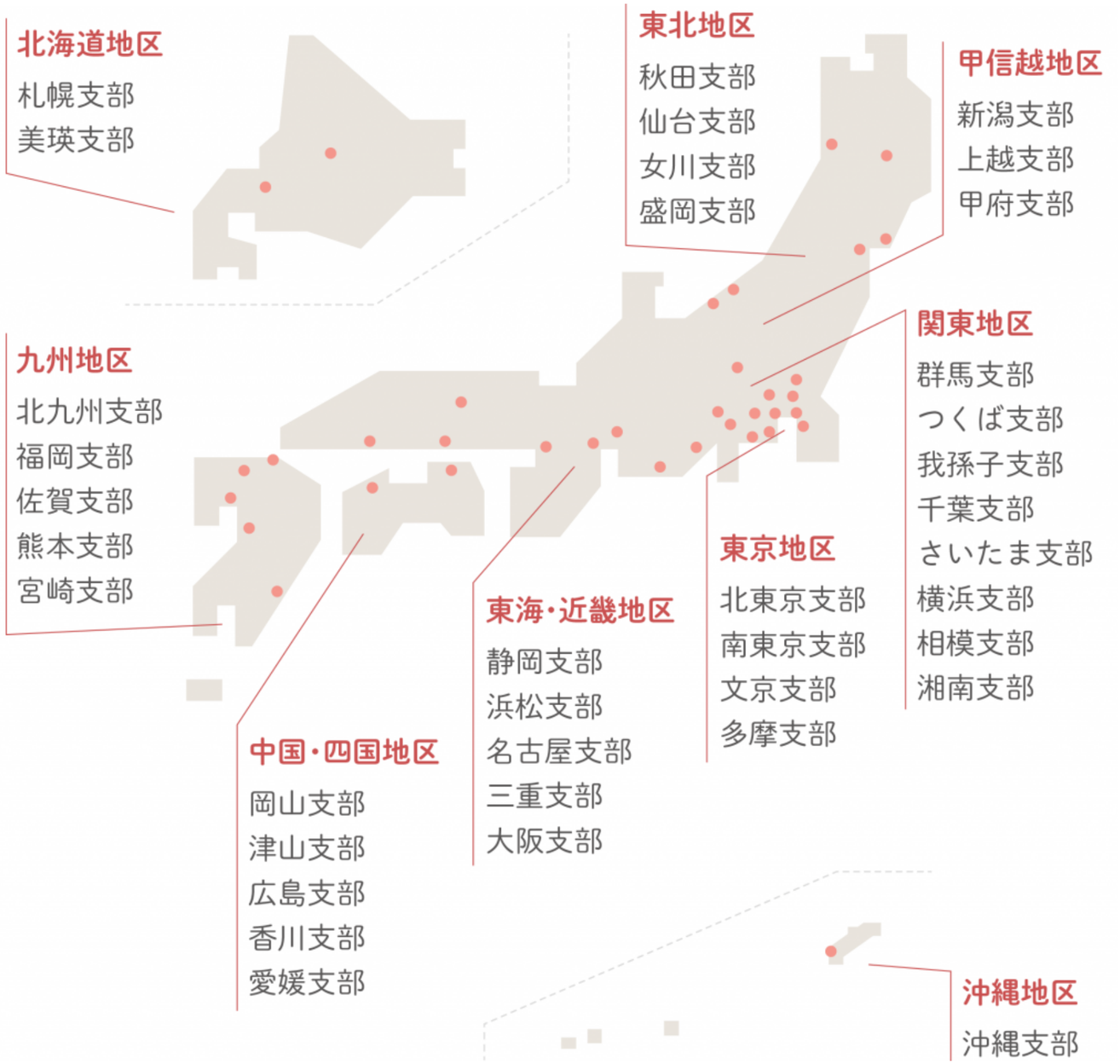
・サンタさんが少しサンタになりきれていない感じがしてしまいました。若めの方だったのですがサンタの「お爺さん感」が薄かったのでいい意味でもっと横柄な感じの方が子どものイメージするサンタ像に近づくと思います。
・メモを読んでも構わないのでゆっくり子ども達に語りかけてくれた方が心に残ると思いました。
・ホームページの説明ややり取りメールがとても分かりにくかった。

＜特に満足した点＞

・子どもと丁寧に対話してくれていた。サンタさんのおかげで、息子は目標を持って毎年クリスマスを楽しみにしています。
・事前のアンケートでお伝えしていた内容を子どもに伝えて下さり、子どもは「やっぱりサンタさんは何でも知っているんだね！」と言っていました。
・サンタさん以外のサポートされている方にもスポットライトが当たっている点が良かった。
・褒めてあげたい事をお話してくださった時に「いつも頑張ってるのを見ているぞ」と添えてくださって、家族以外にも褒めてもらえた事を子どもがとても喜んでいました。

04-04.サンタ訪問活動の総括（２）

新たに４支部が活動開始。全国２６都道府県３７支部で活動しました。



サンタになった人
1,691人

届けたご家庭数
1,236軒

幼稚園・保育園
育児サークル
養護施設・病院など
71軒

届けた子どもの数
4,630人



05-01. 「サンタが来ない」をなくす、ルドルフ基金

日々我慢をさせているから、クリスマスだけでも楽しく過ごしたい。

ルドルフ基金

「ルドルフ基金プロジェクト」は、厳しい環境の中にある子ども達へ無償でサンタクロース訪問とプレゼント提供を行う取り組みです。
「きみのところへサンタさんを連れて行くよ」という思いを込めて、暗闇を照らす赤い鼻を持つ、あの有名な先頭トナカイ「ルドルフ」の名前をつけました。
　無償申込み枠にご応募される皆様の動機は千差万別ですが、そのどれにも「子どもたちを笑顔にしたい」という切実な願いが込められています。社会の支えで、一つでも多くの家庭に笑顔の灯をともすこと、それが「ルドルフ基金」の役割です。

→ルドルフ基金実施報告書はこちら

＜2019年度　無償申込み枠にご応募いただいた皆様の声＞

息子の父親は息子が0歳の時に亡くなりました。突然のことで、もちろん息子に父親の記憶はありません。一緒に誕生日やクリスマスをお祝いした記憶もありません。息子が12月生まれなのですが、誕生日もクリスマスもプレゼントをあげるというのは経済的に厳しいです。保育園のお友達のお家ではパパがサンタ役をやってくれたりすると思いますが、うちではそれができません。3歳ながらいろんな事情を理解し、家のお手伝いをし、ママを助けてくれる息子に、サンタさんからプレゼントを頂けないでしょうか？

9月、10月の台風により自宅が雨漏りし、家具家電が水没、教科書やノート等学用品も買い直しになり生活ができない状況になりました。誕生日もくるがなにもしてあげられない。クリスマスもなにもしてあげられないとなると、どうしたもんかと頭をかしげるばかり。
金策をねり、鬼のような形相になっているであろう私の顔を見ながら、娘が昨年来たサンタさんを思い出し、今年も来てくれるかな？と言いました。
こどもにとって、去年来てくれたサンタさんは最高の思い出だったに違いないと思い、応募しました。

05-02. 「サンタが来ない」をなくす、ルドルフ基金

その日の思い出を、笑顔で語れる「家族の時間」がもたらすもの

ルドルフ基金を通じてサンタクロース訪問を依頼するご家庭の多くは、家庭の経済状況が潤沢ではない、シングル家庭ゆえに人手が足りない、など、外的な環境により「子ども達に寂しい想いをさせているのでは」「当たり前の体験をさせてあげられない」といった「親としての罪悪感」を根底に抱えている傾向があります。しかし、社会の支えがあれば抱かずに済む感情であり、サンタクロースが子ども達の体験や思い出に寄り添うことで、１つ「家族の思い出」に笑顔の１ページを残すことができます。

今日は本当にありがとうございました。感謝の言葉しか見当たりません。おばあちゃんと息子にサンタさんと初めて出会えた娘の様子をいっぱい聞きました。最初は固まってたみたいです。娘にも直接話を聞いてみたところ、嬉しかったみたいであんなに笑って話す娘は今年初めてでした。母親がいない分、私が常日頃から淋しい想いをさせまいと、色々頑張ってきましたが限界があります…。でも、この企画にご応募させて頂き、そしてサンタさんが来て頂き、私も最高の想いです。また来年もご応募させてください。
いっぱいいっぱいありがとうございました。



- ■無償サンタクロース訪問数　・・・221軒
- ■無償サンタからの手紙申込み数　・・・364家庭
- ■体験を届けた子どもの人数　・・・747人
- ■ルドルフ基金への寄付総額　・・・10,354,192円



06. クリスマス前に届く、サンタクロースからの手紙

自由な演出で、家庭のペースでクリスマスを楽しむツールに。

サンタクロースからの手紙は、支部がなく訪問が難しいエリアの子どもたちに「サンタクロースがやってきた体験」を届ける、親子でクリスマスを楽しむ手紙です。一般申込みの収益の一部とルドルフ基金の寄付で、思い出支援が必要なご家庭に対し、手紙を無料で申し込めるクーポンをお届けしています。2019年度は364通分の無償申し込みを受付し、クリスマスの思い出を作るお手伝いができました。

▪一般申込み数　・・・219通

▪無償申込み数　・・・364件

▪事業単独売上　・・・409,500円

▪ルドルフ基金への寄付・・・108,000円

※手紙を申込む際にルドルフ基金への寄付を追加して頂いた額





イブに頂いたお手紙と鍵を靴下の中に入れておき、外から鈴の音をさせてみました。下の子はサンタさんがきたー！と走って玄関に来ましたが、あったのは靴下だけ。
その中には下の子が一生懸命サンタさんに書いた手紙が入っていたはずがサンタさんからの手紙に変わっており、一瞬固まっていました（笑）
お姉ちゃんは6年生で今少し反抗期で、スマホやパソコンぐらいしか欲しいものないと冷めていましたが、お姉ちゃんの分のお手紙も入っていてすごくびっくりしていました。その鍵を２人で玄関の外のドアノブにかけて、2人ともニコニコしながらイブを過ごし、夜中に頂いた鍵に子ども達それぞれの名前のシールを貼って、それぞれのプレゼントにくくりつけて玄関に置いておきました。

朝起きてすぐにプレゼントを見つけて下の4歳の子は字が読めるので昨日サンタさんから届いた鍵、自分がドアノブにかけた鍵と同じ鍵に気づき、名前が書いてあるー！と叫んで大喜びしていました。
お姉ちゃんも自分はプレゼントちゃんと頼んでないのにあった事がとても嬉しかったようで、魔法の鍵も大事に机に飾ってくれていました。
（中略）
この度は本当にステキすぎる経験をさせて頂けた事を心から感謝致します。本当にありがとうございました。

07.「サンタが来る」から「サンタになる」へ

～未来へ送る、サンタからの手紙～



ご家庭から届いたサンタクロース卒業のエピソードは
サンタ新聞WEB版でお読みいただけます。

初めてチャリティーサンタにご依頼いただいたご家庭には「未来の手紙」を郵送しています。
この手紙は、やがて訪れる子どもたちの**「サンタクロースを卒業する日」**にお渡しいただく為の手紙。
私たちが考える「サンタクロース」とは、子どもを大切に思い、笑顔にしたいと思った人たちの「優しい気持ちの集まり」です。
いつの日か子どもたちが、自分自身の大切な人と出会い「サンタクロースが来る」側から「サンタクロースになる」側になった時、**誰かの笑顔の為に行動できる幸せ**を、きっと体験することでしょう。
そして、かつての子どもたちが、チャリティーサンタの活動に参加してくれる日を、私たちは心待ちにしています。

＜2019年度＞

▪サンタ卒業報告　　２件

▪サンタになった子ども達　２支部 ２名

ー　子どもたちは、遅かれ早かれ、サンタクロースが本当はだれかを知る。知ってしまえば、そのこと自体は他愛のないこととして片付けられてしまうだろう。しかし、幼い日に、心からサンタクロースを信じることは、その人の中に、信じるという能力を養う。わたしたちは、サンタクロースその人の重要さのためでなく、サンタクロースが子どもの心に働きかけて生みだすこの能力ゆえに、サンタクロースをもっと大事にしなければいけない（中略）心の中に、ひとたびサンタクロースを住まわせた子は、心の中に、サンタクロースを収容する空間をつくりあげている。サンタクロースその人は、いつかその子の心の外へ出ていってしまうだろう。だが、サンタクロースが占めていた心の空間は、その子の中に残る。その空間がある限り、人は成長に従ってサンタクロースに代わる新しい住人を、ここに迎えいれることができる。

こぐま社「サンタクロースの部屋」より

08. ブックサンタ2019 ～「誰かを笑顔にしたい」想いを絵本に託して～

丸善、ジュンク堂書店の参加が決定



ブックサンタ2019では、全国に展開する書店チェーン「丸善、ジュンク堂書店」、関西エリアに展開する「大垣書店」の参加により、絵本の寄付ができる書店のエリアが昨年の22都府県から**34都道府県282店舗**に拡大。絵本の寄付活動にさらに参加しやすくなりました。このプロジェクトへのクラウドファンディングには**2,009,000円**のご支援が集まり、本年度ご寄付いただいた絵本の数は6,011冊となり、3,003冊を子ども達に届けました。

名古屋のホテルで「絵本の寄付つき宿泊プラン」が開設

名古屋駅前モンブランホテル様、名古屋伏見モンブランホテル様がブックサンタの取組に賛同いただき、ブックサンタ法人アンバサダーとなりました。
チェックインの際に、ホテル側が選定した１０種類の絵本の中から宿泊客が１冊選べる「寄付体験」が好評で、合計56冊の絵本の寄付となりました。

※ブックサンタ2019は「NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド（「MCF）」の助成を受けて実施しています。

09.被災地サンタプロジェクト ～災害に対してサンタクロースができること～

台風や豪雨などで被災した保育園・幼稚園などに絵本を寄贈しました



2019年に発生した台風19号・21号および８月の豪雨水害によって被災した保育園・幼稚園などに、流失してしまった絵本の寄贈を行いました。
寄贈した絵本はブックサンタプロジェクトによって集まった絵本を対象施設ごとに選書し、プロジェクト実施に係る諸経費はYahoo!ネット募金にて募りました。

活動報告

- 寄贈した絵本　・・・760冊
- 寄贈した園　・・・11園
- 寄付総額　・・・1,125,191円
- 寄付人数　・・・3,251人

子どもたちは絵本が大好きです。保育園のお迎えの後にも、お母さんに読んでもらったり借りていく姿がありました。被災して現在は園舎を修繕しているところです（※2019年12月時点）。不十分な環境の中でも、絵本は子どもたちに素敵な時間を提供してくれます。
見えないところから、支援を下さる皆様の温かいお心遣いに助けられています。本当にありがとうございます。

※Yahoo!ネット募金で集まった寄付金に関して、2019年度に使用しなかった費用は「ルドルフ基金」にて一旦お預かりし、今後の災害時の「被災地サンタプロジェクト」や、ルドルフ基金にて支援している経済的に困難なご家庭への支援活動費として大切に使用させていただきます。

10.福島生き×活きキッズツアー　～忘れない、3.11～

東日本大震災以降、毎年夏休みには福島県内で外遊びに不安を抱えている家庭の子ども達を招いた自然体験ツアーを行っています。

震災から8年が経ち、あの日の記憶がない子どもたちも増えてきました。

今年度は「被災した当時は漠然としか考えられなかったが、親になった途端に不安を感じ始めた」という新たな親世代からの申込みが印象的でした。福島キッズ達は山登りや海水浴を経験し、地域の大人達と触れ合うことで外遊びの大切さを肌で感じ、ツアー最終日の振り返りの時間では、涙ながらにそれぞれの気持ちを一生懸命言葉にして伝えてくれました。

２０１９年は岡山と広島の二箇所で開催。

※「子どもゆめ基金」の助成を受けて実施しています。

もっと詳しい活動報告はこちら

https://santa-press.publishers.fm/issue/4649/



広島のスケジュール
Day1:移動＆ウェルカムお好みパーティ
Day2:竹細工体験
Day3:海水浴＆流しそうめん
Day4:民泊＆シーカヤック
Day5:原爆資料館＆キャンドルナイト
Day6:フェアウェルパーティ＆帰宅



岡山のスケジュール
Day1:移動＆ウェルカムパーティ
Day2:上山探検＆収穫体験＆カレー作り
Day3:夏祭り準備＆ピザ作り体験
Day4:夏祭り＆スカイランタン
Day5:フェアウェルパーティ
Day6:新幹線で帰宅

11.Santa Mothers Dreams ～ネパールのお母さんと作るフェルト人形～

Santa Mother’s Dream では、ネパールで子どもを持つ女性を対象に手に職をつけるための縫製トレーニング、その先の「仕事を作る」ことを目指して、日本人のフェルト作家さんがデザインしたフェルトマスコット人形を製作しています。2019年は５種類・限定500個をブックサンタ参加店の一部で店頭販売しました。

このプロジェクトにより現在８人のネパール人ママの雇用創出に繋がっていますが、まだママたちの生活を支えるほどの収入には至っておらず、2020年に入ってからは新型コロナウィルスによる首都ロックダウン、ネパールの基幹産業である観光抑制など、厳しい状況が続いています。目下の課題は品質を上げて量産体制を整え、安定した販売数と収益の確保をすること。これがネパール人ママたちの雇用を維持し、生活を支え、その先にいる子どもたちとの暮らしを守ることにつながります。





12.「体験」が子どもたちに与える効果

「特別な思い出」を、子ども達の心の成長につなげるために

子どもたちにとって「サンタさんがやってくる」体験は、どのような意味を持つのでしょうか。

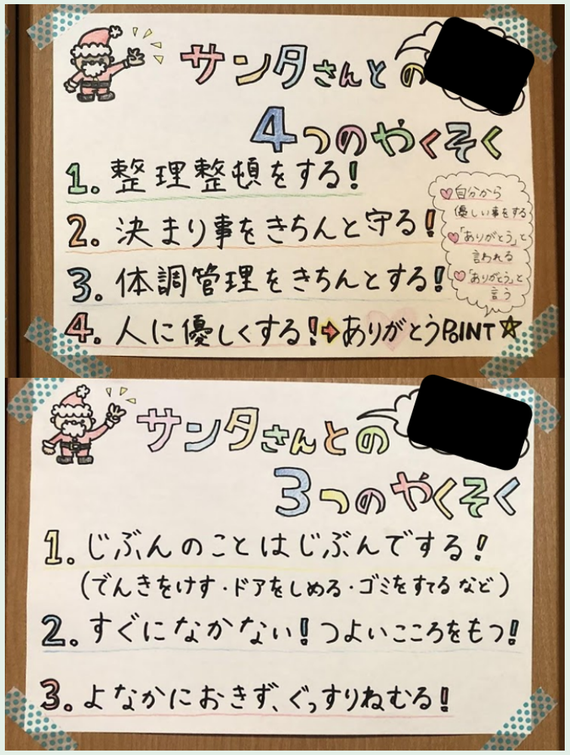
2017年、ある家庭から「娘が難病を抱えており、もしかすると年を越せないかもしれない」とご連絡をもらいました。**家族での特別な思い出**を残したい…そんな想いの元での初めてのサンタ訪問に、娘さんは大喜び。親御さんからも**「この体験は生活の原動力となった」**との感想をいただきました。

その後、嬉しいことに彼女のおうちへの訪問は３年間続いています。娘さんは１３歳になりました。

思春期に差し掛かり、本人の病気に対する心持ちも不安定になり、自己管理や同級生との交流もうまくいかない。学校生活でも様々な問題が起き始めている…。そんな中であっても、娘さんにも家族にとっても「サンタクロースの訪問」は「パワーを貰える特別な時間」なのだと、今年もご依頼をいただきました。

ボランティアのサンタクロースは、娘さんとご家庭の様子を知り、訪問にあたってアドリブで「ありがとうの魔法」の話をし、子ども達と「約束」を交わしました。その約束を、娘さんと弟さんは今でもしっかりと守っています。

クリスマスが終わり、お母さんから頂いた感想には、
「年々成長していく子どもたち、環境が変わるなかで懸命に成長している子どもたち。**そんな子どもたちを一緒に見守ってくださるサンタさんが居てくれること**は我が家にとって最高のプレゼントです」との言葉がありました。



家族ではない誰かが寄り添ってくれること・自分を応援してくれる第三者の存在があることで、難病という厳しい現実に向き合う娘さん自身の心の葛藤や、親御さんの歯痒さなどを包み込み、前向きに一歩を踏み出すことができる…。私たちもこのご家庭とのやり取りから、クリスマスのサンタクロース訪問という**「特別な体験」**と、それによって子ども達の心に刻まれる**「特別な思い出」**が、ひとりの人間の、大切な心の成長の一部分に関わっていることを実感することができました。

13.企業との連携事業

チャリティーサンタでは、民間企業と活動連携を行うことで、企業の持つビジネスノウハウやネットワークを活かしたルドルフ基金への募金・社員のボランティア活動参加促進など、企業のCSR活動支援を行なっております。私たちはこの活動により、社会のより多くの大人が子どもを取り巻く社会課題に気づき、課題解決の当事者として活動する機会を創出することを目指しています。

事例紹介

・社員に対するサンタボランティアへの参加促進活動（サンタクロース訪問）
・寄付つき商品の販売（収益金の一部又は全部をルドルフ基金へ寄付）
・チャリティーサンタ活動の広報協力

※民間企業のSDGs活動やCSRの取り組みとしてチャリティーサンタと連携・協働頂き、自社社員のボランティア活動参加促進、寄付活動への参加促進にご協力いただきました。

連携企業様のご紹介（敬称略）　連携実績数：**１１社**

株式会社三菱 UFJ 銀行　三菱UFJ信託銀行株式会社　三菱UFJ証券ホールディングス株式会社
三菱UFJニコス株式会社　アコム株式会社
株式会社アンデルセン　株式会社ディノス・セシール
シスコシステムズ合同会社　シングル１０株式会社　ブランド・ロイヤルティ・ジャパン株式会社
株式会社ラグランジュポイント







14.自治体との連携事業

チャリティーサンタが得意とする「特別な思い出づくり」の活動を活かし、全国の自治体が抱える「子どもの貧困」問題に対して行政機関がカバーしきれない「体験と思い出」の個別支援を提供することを目的に地方自治体との活動連携を行なっています。この活動により、支援を要する親子が地域や社会から孤立してしまう前に支援の手が届くネットワークを生み出し、貧困を連鎖させないための取組みを実践しています。

事例紹介 ～岡山市子ども福祉課との協働調査からわかったこと～

2019年度は岡山市子ども福祉課を通じて、岡山市内の児童扶養手当受給家庭のうち、満３歳～満９歳の児童を持つ家庭1,994家庭に対して「体験と思い出」に関するアンケート調査を行いました（回答数345家庭）。アンケートの回答お礼に、クリスマスプレゼントとして「サンタクロース訪問（絵本のプレゼント付）」または「手紙と絵本のプレゼント」を用意し、自治体と連携することで、チャリティーサンタ単体ではリーチできなかった世帯への「特別な思い出」の提供が可能になると同時に、ひとり親世帯の切なる声もヒアリングすることができました。

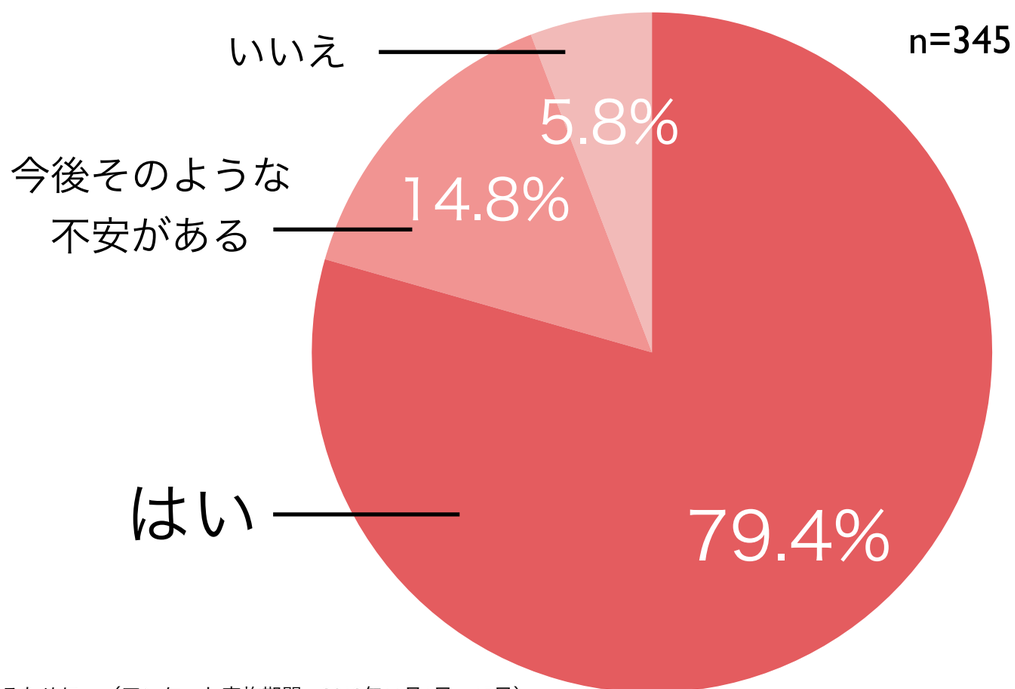


ひとり親の約９割が「体験に対して諦めや不安」を感じている

「動物園やアミューズメントパークに連れて行ってあげたいが、まだ下の子が2歳のイヤイヤ期真っ盛りで、手も繋がせてくれない状態なので、公共交通機関を使うことが難しく、車での長距離移動も不安で、二人の面倒を見ながら2人分の荷物を持って移動するのが困難。」（4歳、2歳の子どもの保護者）

「男の子なので公園や野外での体験を思いっきりさせてあげたいが、体力的・時間的余裕がなく、理想とは程遠い状況。野外活動などは母子2人では楽しめきれないのも現実です。日常生活を満たしてあげる事が優先になってしまい、イレギュラーな季節のイベントなどは疎かになりがち。この満たされない事の積み重ねや経験不足が、心の発達や学力に影響するのではと心配です。」（4歳の子どもの保護者）

Q.子どものしたい（してほしいだろう）ことができなかった経験がありますか？



出典：NPO法人チャリティーサンタ　体験にみる子どもの貧困　345世帯の声から見えたこと～ひとり親家庭での体験を支えるために～（アンケート実施期間　2019年11月1日～15日）

15.大学との連携　～大学生のボランティア活動参加促進の事例～

「あの子」を想う、心を込めた「絵本の選書会」





（※）お子様や応募されたご家庭を特定するような個人情報は全て削除した状態で実施しております。

「子どもたちにどんな絵本を選ぶのか。たとえば”野菜嫌いをなおしてほしい”とお母さんが書かれていたとして、安直に野菜の絵本を選ぶだけではなく、”元気にすくすく育ってほしい”という想いを汲んで、その想いに寄り添った絵本を選びましょう。**１冊の出会いで、その子の心にどう触れることができるか。みなさん、心のサンタクロースになってくださいね**」
これは、今回絵本の選書会にご協力いただいたノートルダム清心女子大学の先生の言葉です。
2019年度は、700人以上の子どもたちへ絵本のプレゼントを実施しました。
授業の時間を使って先生方から「絵本を選ぶこと」の意義を伝え、実際にプレゼントする子どもたちの情報(※)を参考に、100名以上の学生が１冊１冊子どもたちの喜ぶ顔を想像しながら選びました。
学生にはボランティア活動を通じ、利他的行動の先にある学びの機会に、NPOは学生の若い力とエネルギーを活動に活かすことができるため、大学と共に活動できることには大きな意義があります。

→もっと詳しい活動報告はこちら

＜活動連携大学＞
ノートルダム清心女子大学（岡山県）

16.メディア掲載実績

過去最大のメディア掲載。人気YouTubeチャンネルでは100万回再生。

2019年は団体史上最もメディア掲載された１年となりました。新聞記事がLINE上のニュース媒体に掲載され、LINEニュース（登録者3,002万人）で紹介、朝日新聞デジタル（登録者448万人）では2回も紹介され、Web上でも反響が続く結果となりました。加えてSNSでも広がりを見せ、Instagramで著名人が活動を紹介する事例も。その他、YouTubeの人気チャンネルでで紹介された動画は再生回数100万回を超える結果となりました。

媒体	掲載数	概要
テレビ	3	NHK（関東）、TVQ九州放送(福岡)、MBC南日本放送（鹿児島）
新聞	12	朝日新聞×3、東京新聞、中日新聞、西日本新聞、山陽新聞、愛媛新聞、共同通信（信濃毎日新聞、埼玉新聞、神奈川新聞、秋田魁新報） ※その他業界紙などにも掲載
ラジオ	10-20	出演に加え、時事ネタとして「あの子」を想う、心を込めた「絵本の選書会」番組パーソナリティによる紹介などもあり。
WEB	21	オリジナル記事のみ。 新聞記事の転載など含めると多数。



17.活動協力・連携団体のご紹介（敬称略）

特別協力

NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ/株式会社西濃運輸 木更津支店

【ブックサンタご協賛企業】
日本出版販売株式会社
【ブックサンタご協力企業】
有限会社一進堂/株式会社いまじん白揚/株式会社大垣書店/株式会社積文館書店/大日本印刷株式会社/日本出版販売株式会社/ブラス株式会社/株式会社丸善ジュンク堂書店/株式会社リブロプラス/株式会社Y・space/印刷工業会 出版印刷部会
PAJらぶっく/株式会社城野（名古屋駅前モンブランホテル/名古屋伏見モンブランホテル）

プレゼント配布協力

フードバンクふなばし/フードバンク調布/NPO法人フードバンクTAMA/NPO法人フードバンク狛江/認定NPO法人スマイルオブキッズ/千葉県こども病院/NPO法人えがおプロジェクト/株式会社ちびず/シングルペアレント101/しんぐるまざぁず・ふぉーらむ出雲 /.style(ドットスタイル)/NPO法人子ども家族生活サポートセンターいとでんわ/香川ぼしふしの会/まつやま子ども食堂/シングルマザー交流会松山/愛媛大学医学部附属病院/地域に子どもの居場所を作ろう・グループ「わいわい」/しんぐるまざあず・ふぉーらむ福岡/フードバンク熊本/しんぐるまざぁず・ふぉーらむ沖縄/児童サポートハウス くれよん！(特定非営利活動法人海莉)/放課後デイサービス はぴねす(株式会社avancee)/こども医療センター/浦添市立森の子児童センター

広報協力

しんぐるまざあず・ふぉーらむ北海道/NPO法人インクルいわて/NPO法人秋田たすけねっとあゆむ/放課後デイサービス施設 インクル2（社会福祉法人グリーンローズ）/秋田わかばハイム（社会福祉法人秋田県母子寡婦福祉連合会）/秋田県ひとり親家庭就業自立センター（社会福祉法人秋田県母子寡婦福祉連合会）/NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島/東京都ひとり親家庭福祉協議会/社会福祉法人 文京区社会福祉協議会/文京区 こども宅食/文京区子ども食堂/一般財団法人横浜市母子寡婦福祉会/NPO法人フードバンク横浜/ NPO法人えがおプロジェクト/女性の社会生活活動部 フルード/NPO法人仕事工房ポポロ/社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会/浜松市母子寡婦福祉会/母子家庭等就業・自立支援センター西部支所（公益社団法人母子寡婦福祉連合会）/母子家庭等就業・自立支援センター 西部支所/シングルマザーのつながるネットまえむきIPP O/シンママ大阪応援団（大阪社会保障推進協議会）/岡山市こども福祉課/一般社団法人ほっと岡山/母子寡婦福祉連合会/NPO法人子ども家族生活サポートセンターいとでんわ/NPO法人こどもステーション/一般財団法人広島市中区母子寡婦福祉会/一般財団法人広島市西区母子寡婦福祉会/一般財団法人広島市安佐南区母子寡婦福祉会/学生服リユースShopさくらや（株式会社サンクラッド）/社会福祉法人高松市社会福祉協議会/特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲイン/シンママ熊本応援団/NPO法人みやざき子ども文化センター/みらい子育てネット宮崎市地域活動クラブ連絡協議会/清武地域子育て支援センター（社会福祉法人清武社会福祉会）/NPO法人子ども虐待防止みやざきの会/一般財団法人　宮崎県社会福祉会/宮崎市　福祉部　子ども未来局子育て支援課/こども家庭支援センターつぼみ（社会福祉法人カリタスの園）/沖縄県ひとり親家庭技能習得支援センター/沖縄県立南部医療センター・こども医療センター/なは市民活動支援センター /社会福祉法人那覇市社会福祉協議会/社会福祉法人浦添市社会福祉協議会

18.2019年度 寄付受付結果のご報告

2019年度に皆さまからいただいたご寄付は、下記の通りです。（現物寄付/活動協力を除く）　皆さまの深いご理解とご協力を賜り、ご支援を頂きましたこと厚く御礼申し上げます。

寄付受付総額：12,506,918円

寄付種別	寄付金の使用用途（抜粋）	金額
チャリティーイベント事業に関する寄付 (内、ルドルフ基金への寄付)	・クリスマスプレゼントに係る費用 ・サンタクロース訪問事業の拡大 ・災害に対するプロジェクト費用	10,464,153 (10,354,192)
チャリティーグッズ事業に関する寄付	・サンタクロースからの手紙 ・クリスマスフェルトマスコット	108,000
子どもの体験活動支援への寄付	・福島生き×活きキッズツアー	117,050
活動運営費用への寄付	・衣装などの備品管理費用	1,817,715
合計		12,506,918



ご寄付・ご協賛企業（敬称略）

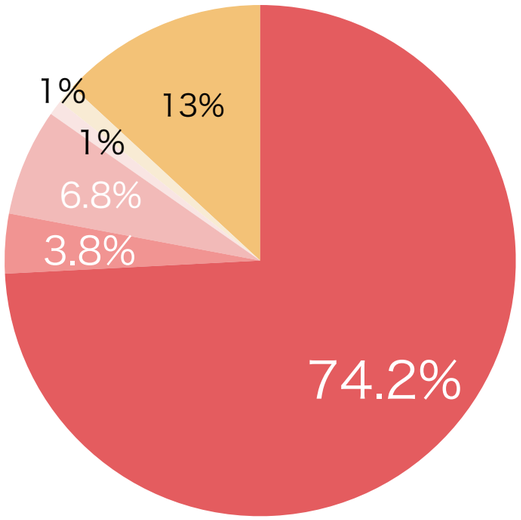
Peach・Aviation株式会社/株式会社LG/株式会社ISAMI/株式会社HLS/株式会社MKプランニング/株式会社ぽとふカンパニー/株式会社SRS/阪倉法務事務所/メットライフ生命/プルデンシャル生命/亀井堂総本店/もぐらさんとケーキ/エース/市川塗装/創構エンジニアリング/株式会社K’s/河内でんき/ホーム不動産/一般社団法人くらし相談/株式会社will/株式会社F style/くじらペンギンハウス/Licomo Drink&Space/株式会社エスレーヴ/岡山両備タクシー株式会社/カバヤ食品株式会社/株式会社明治/お気軽会議室グループ/一般社団法人日本こどもの生き抜く力育成協会

【寄付金控除に関して】　「認定NPO法人」へのご寄付は確定申告の際に所得控除や税額控除を受けられます。多くのお問合わせをいただいておりますが、NPO法人チャリティーサンタは2019年度現在、認定NPO法人となっておりませんので当団体への寄付金は税額控除の対象とはなりません。只今認定取得の準備を進めている最中ですので、最新情報は公式HPにてお知らせさせて頂きます。

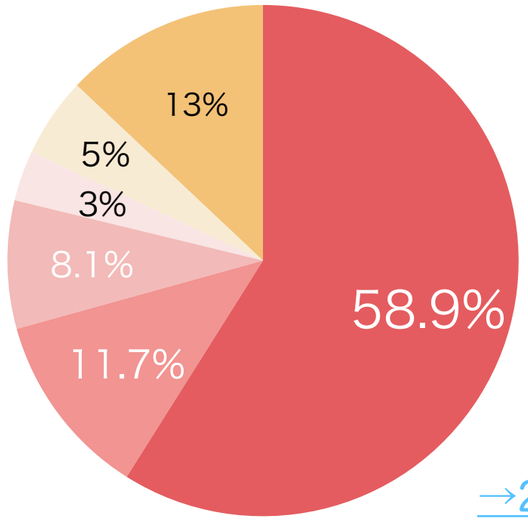
19.2019年度会計報告

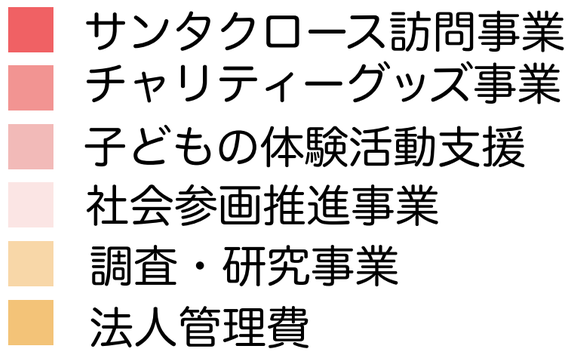
チャリティーサンタでは「子どものために大人が手を取り合う社会」を目指し企業や団体との連携に注力しています。会計の部では企業・行政・団体・個人など様々な主体と手をとりあった結果、サンタクロース訪問事業において助成金・寄付金・事業収益並びに関係人口が昨年度より増加致しました。この2019年度に得ることができた基盤をもとに、さらに子どもたちに必要な体験を届けていきます。

収入の部



支出の部





→2019年度の活動計算書・事業報告書で見る

収入の部

科目	サンタクロース訪問事業	チャリティグッズ事業	子どもの体験活動支援事業	社会参画推進事業	調査研究事業	法人管理	合計
Ⅰ経常収益							
１．受取会費	0	0	0	0	0	1,216,680	1,216,680
２．受取寄付金	10,464,153	108,000	117,050	0	0	1,817,715	12,506,918
３．受取助成金	1,302,000	0	634,748	0	286,000	0	2,222,748
４．事業収益	5,831,914	786,820	853,905	227,750	0	0	7,700,389
５．その他収益	0	0	0	0	0	77,798	77,798
合計	17,598,067	894,820	1,605,703	227,750	286,000	3,112,193	**23,724,533**

支出の部

科目	サンタクロース訪問事業	チャリティグッズ事業	子どもの体験活動支援事業	社会参画推進事業	調査研究事業	法人管理	合計
Ⅱ経常費用							
１．人件費計	5,978,584	852,761	0	706,211	706,211	1,490,628	9,734,395
２．活動経費計	7,575,411	1,847,879	1,863,757	29,440	449,101	1,493,738	13,259,326
合計	13,553,995	2,700,640	1,863,757	735,651	1,155,312	2,984,366	**22,993,721**
収支合計	4,044,072	-1,805,820	-258,054	-507,901	-869,312	127,827	**730,812**